

かなざわ 2月号

令和2年1月31日

横浜市立金沢小学校

金沢区町屋町26-26

☎781-2401

AI に仕事を奪われないための読解力

教務主任 長澤 貴之

最近AI（人工知能）に関するニュースを多く目にするようになりました。昨年大みそかのNHK紅白歌合戦で「AI美空ひばり」をご覧になった方も多いかと思います。先月はワーナーブラザーズ社が映画製作にAI技術を導入すると発表して話題になりました。人間の仕事をAIが本格的に請け負う時代がやってきたのかと、期待感と空恐ろしさが入り混じった気持ちになりました。

累計30万部を突破した本「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」では、AIが得意なことと苦手なことについて触れています。得意なのは記憶したり計算したりすることで、苦手なのは文章の意味を理解すること…つまり読解力です。一方、人間はどうでしょうか。著者が全国2万5000人の小学生～高校生の読解力を調べたそうです。以下に問題の一例を示します。



【問題】

Alexは男性にも女性にも使われる名前で、女性の名Alexandraの愛称であるが、男性の名Alexanderの愛称でもある。この文脈において、以下の文中の空欄に当てはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

Alexandraの愛称は（ ）である。

- ①Alex ②Alexander ③男性 ④女性 ※答えは裏面に

中学生の正答率は38%でした。著者によると、日本の中高生の多くは英単語や世界史の年表などの知識は豊富なのですが、教科書程度の文章を正確に理解できないのだそうです。先月公表された「PISA（ピザ…国際的な学習到達度調査）」の結果では、高校生の読解力低下が指摘されました。また、小学生のスマートフォン所持率がここ数年で増加しているそうですが、SNSでのコミュニケーションは短い文を読むことが中心であり、文章を読む力には結びつかないのではないかと考えられます。

今後、記憶や計算の仕事は、人間よりはるかにスピードが速く、かつ間違いが少ないAIが担うこととなるでしょう。となると、人間はうかうかしてられません。これからはAIに置き換えられない能力を身に付けることが急がれます。

複雑で予測困難なこれからの時代、子どもたちには目的や意図に応じて的確に読み取る能力やすすんで読書に親しむ態度を身に付けてほしいと思います。そのためにも、読書などを通して様々な形態の文章にふれる機会を増やしたいです。

また、本校でも来年度からの小学校プログラミング教育の実施に向けて、研修、教材研究を行い、授業実践をしています。プログラミングの基礎は論理的な考えとプログラムを読み解く力とされています。土台となる読み解く力がしっかりしていないと、新たな取組を実施しても、子どもたちに身に付けさせたい力の育成にまで到達することができないかもしれません。

そして、2月は市学力・学習状況調査を実施します。この調査では読み取ったことから考える力の育ちの状況を判断できる問題が出題されることと思います。この結果を分析することから、来年度の指導や学習の方向性をにつなげていきたいと考えています。